



グリーンコープ30周年記念TVCM 自然の精たちと少年の 物語がはじまりました

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2018 3月

発行：グリーンコープ共同体理事会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
http://www.greencoop.or.jp/

Contents

東日本大震災から七年
グリーンコープは
これからも復興への歩みに
寄り添い続けます 2・3

脱原発を実現するために
グリーンコープでんきを
広げよう 4・5
2月3日決起集会
全国ご当地エネルギー協会の
水俣薄原太陽光発電所竣工

2017年度
平和学習会 6

グリーンコープの輪・和・環 7
グリーンコープやまぐち生協
沖村 恵子さん

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

チェック! 詳しくは
51号配布チラシ
をみてね!

東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨の被災地の皆さんと、これからも共に歩んでいきます。今年も復興支援募金にご協力をお願いします。

受付期間
3月5日(月)～3月17日(土)

グリーンコープの世界観を15秒間につめ込んで

グリーンコープ30周年を記念し、新しいテレビコマーシャルが一部の単協エリアからスタートしました。そのテーマは、「自然と人の共生」。グリーンコープの「ホシ」に住む自然の精たちと少年の出会いから物語がはじまります。

日本アニメーション屈指の制作陣が、細部にまでこだわった繊細な表現で、グリーンコープを優しく伝えます。

※グリーンコープのホームページでもご覧いただけます



第一弾CM「雨上がり」の場面
ある雨の日、少年は学校からの帰り道、「生活の葉」のほのかげに
いる小さな存在に気が付きました。近寄りたくみくみく見ると...



プロデューサー・
コンセプトデザイナー
釘宮 陽一郎さん

1961年生まれ。神奈川県出身。ゲームメーカーで数々のプロモーションCM作品を手掛ける。独立後アニメーション企画制作会社「トラッシュスタジオ」を立ち上げる。現在、コクリコ坂から以降のスタジオジブリ作品で、監督プロデューサーのサポートなどの制作業務に関わりながら、トラッシュスタジオでアニメーションを生かしたオリジナルCMを多数制作している一足の草鞋のプロデューサー。



©AY

今回CMの制作を依頼いただき、早速グリーンコープのホームページを覗いて「自然と人の共生」といいなあ」と思いました。グリーンコープでは、子どもたちも混じって米作りを体験する取り組みもあるそうですね。農業を使わない田んぼならたぐさんの虫がいるのでは。田植えや草取りでは稲や水の中に隠れた小さな虫が飛び出してきて、触れる機会もあるでしょう。そういう自然とのかかわりの中で、小さな生き物にも目を向ける感性や自然を大切にすることも育つのではないかなと思います。グリーンコープの、今ある自然を守

ついでにこうという考えに共感し、「自然と人の共生」というテーマならきつと良いCMが作れるだろうと考え、早速アニメーターの山下明彦さんに話をしました。

山下さんは皆さんご存知のアニメーション映画をたくさん手掛けていて、ピカイチの腕と溢れるばかりのアイデアの持ち主です。私は自然を象徴するようなキャラクターを1体考えてほしいとお願いました。すると、「できたよ」と送られてきたのが、たぐさんの自然の精たち。どれを選ぶのかと悩むうちに、この妖精たちはみんな緑の地球に暮らす仲間で、それぞれが自然を象徴しているというイメージが浮かび、インスピレーションで「緑」「花」「土」「水」...と名付けました。

皆さんに観ていただくのはたった15秒ですが、グリーンコープの「ホシ」はどこかに本当に存在していて、そこでは人間と自然の精たちが日々かわりながら暮らしていて、その日常の一場面が切り取られてCMになっていると感じてもらえるようにスタッフ総動員で知恵を絞っています。

自然の精たちもこれからだんだんと登場します。ご期待ください。



©AY

※山下明彦さん
1966年生まれ。岡山県出身。30周年キャンペーンのキャラクターデザインを開発。今回のTVCM監督。幼少の頃TVの海外アニメーションの動きに魅せられてアニメーターの志す。数々の作品をメインスタッフとして歴任し、スタジオジブリ劇場映画ではアニメーション演出、作画監督として参加。ジブリ美術館の短編映画「ちゅうぶつ」では、監督も務めている。同氏の描く、やわらかい動きと力感、鶴のものを魅了する。主な作品として、「千と千尋の神隠し」「原画」「ハウルの動く城」作画監督、「ゲド戦記」アニメーション演出、「借ぐらしのアリアディ」作画監督など。



撮影監督
藪田 順二さん

人物を描く人、色を塗る人、背景を描く人などがいて、それぞれの人が生み出したものを預かって一つの映像にしていく仕事をしています。最終的な画面のイメージがここで決まるので、良いものに仕上げるために、みんなでギリギリまで意見交換をします。

観る人に何を訴えるのかで間の取り方も変わります。物語の奥に込められた、観る人に伝えたいメッセージをどのように形にしていけるか、スタッフみんなの力で作り上げていきます。



音楽プロデューサー
古城 環さん

映像と同様に作品のイメージを左右するのが音楽です。「自然と人の共生」という今回のテーマを音楽でも感じていただけるように、ちゃんと楽器を演奏してデジタルでは出せない優しい音にしようと考えました。第一弾はギターの生演奏です。演奏チームと協力して音

づくりをしています。15秒は短いので、音楽での表現は限られてしまふのが難しいところですが、ワンフレーズで印象に残るような柔らかく心に響くメロディーをお届けしていきます。



©AY